



☆「外へ、外へ」

寒風など気にせず、園庭での遊びに夢中になる子ども達。田んぼ一面に張った氷をスコップで割って素手で持つと「こんなに大きな氷とれたよ！」と嬉しそうに話してくれます。自然の美しさや不思議さに魅了された子どもの目の輝きに勝る物はありません。その瞳の奥には、豊かな感性と科学性の芽生えが満ち溢れています。

毎朝、縄跳びに挑戦する子どもも多く見られます。特に今年度は縄跳びを遊びや活動に多く取り入れてきたため、その上達には目を見張る物があり、「あや跳びが〇〇回できた！後ろ跳びも簡単にできるよ！二重跳びに挑戦しているんだ！」等と言いながら様々な跳び方を見せてくれます。NiziUの縄跳びダンスの影響もあるのかもしれませんが、女の子は歌を歌いながら嬉しそうに縄跳びダンスを見せてくれます。

朝のマラソンは芝生広場、畑の周り、棚田の周り、森の広場、てっぺん広場とアスレチック周りなど、様々な地形の場所で行っています。クラスごとに色々なコースを楽しみながら音楽に合わせて走っています。

先日、運動遊びの中で「運動能力測定」を行いました。これまでの本園の歴史の中でも一番高い結果（平均値）であったようです。3月～5月の臨時休園を考えると、むしろ低いことも予想していたのですが、今年度はコロナ禍の幼稚園における生活様式として、できるだけ戸外での遊びや活動を中心に保育を行ってきたこともあり、大きな効果として現れたのではないかと考えています。

「外でできることはなるべく外で」という本園が移転の際に掲げたテーマが、コロナ禍の保育によって前進したと言えるのかもしれませんが。入園案内や説明会でも毎年触れていますが、日本の幼児教育の父、倉橋惣三の「外へ、外へ」という言葉を体現する形となりました。以下抜粋し紹介します。

～「外へ、外へ」～

「その狭く暑い煉瓦塀の囲いと窮屈な保育室の机腰掛けから、つとめて子どもを解放せざる、何も屋根の下のみが保育の場所ではあるまい。その手を引いて丘へ上り、そのすそをかかげて小川を渡り、野を馳せめぐりて花を摘み、磯をつたうて貝を拾う間に、そこに大きな保育の場所があるのではないか。広い自由な遊び場と、新鮮な空気と、充分な日光とを子どもの身体の立場から賛美するのはまだ足りない。むしろ子どもの精神の真の発達のために第一欠くべからざる物としてこの3つを要求する。」(引用：「倉橋惣三選集 第二巻」より)

「広い自由な遊び場、新鮮な空気、充分な日光」。100年前も、コロナ禍の今も、そしてコロナ後の未来においても、子どもの育ちに欠かせない「3つの宝」で有り続けるのでしよう。寒さに負けることなく、「いざ、外へ、外へ！」

園長 内野 彰 裕



★2学期終了

本日をもって2学期が終了となります。新型コロナの影響で、例年とは行事のスタイルも異なりましたが、1日1日を充実して過ごすことができ、子ども達も大きく成長したと感じております。保護者の皆様には、日々の生活面や行事、またコロナ対策などにおきまして、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。皆さまからの励ましのお言葉や、「信頼を頂いている」という安心感が、保育者の一番の支えとなり、明日の保育への活力となります。

3学期も教職員一同、この環境を活かした教育の質を高め、子ども達の更なる成長のために努力をしております。明るく年も、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。2021年が子ども達にとって、皆様にとって佳い年になりますよう。

★クリスマス会

みんなが楽しみにしていた「クリスマス会」。今年度は、ホールにクラスごとで集まりサンタさんに対面！ 集合写真を撮影し、各クラスに戻るとサンタさんからのプレゼントが用意されていて大歓声か！ 給食もクリスマスメニューで、楽しいクリスマス会となりました！



★年長 ムササビに遭遇!!

毎年、年長さんは園庭の森の広場に棲むムササビに興味を持ち、巣箱の観察や環境作りなどの活動を行っています。今年度も巣箱の前に設置してある定点カメラで撮影した動画を見て、ムササビが遊ぶ様子や、天敵のテンが巣箱を襲おうとしている様子も確認して興味を深めています。

そして、今月23日には、巣箱の掃除風景を観察している時、たけ組がムササビに遭遇し、木を登って滑空する様子を目の当たりにしました！ あまりの衝撃に子ども達も大興奮！ ふじ組とみずき組は、その動画を翌日見て画面越しでしたが一様に大興奮でした！

冬は繁殖シーズンですので、巣箱の中はスギやヒノキの樹皮で作ったふかふかのベッドができていて、これから子育てが始まるのではないかと期待させる物でした。3学期にはムササビに関するアクティブラーニングが深まっていくことと思いますので楽しみにしたいと思います。様々な命を尊重し、思いやる気持ちを育むことができるよう見守って参ります。



★年長 陶芸制作～野焼き

年長さんが園庭の土を使って、毎年恒例の陶芸を行いました。園の土は上質な粘土であるためこれを使ってのお皿を作ります。アトリエの菱田波先生指導の下、お皿の形にすると、3週間ほど乾かした後、森の広場で半日かけて焼き上げました。割れないよう徐々に火に近づけながら温度を上げていき、個性豊かなお皿が完成しました！



★年少 ジャガイモ掘り



★年少 クリスマス制作



★年中 クリスマス制作



12月のいろいろ ～園庭で、森で～

